

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立北嵯峨高等学校 】

1 実践テーマ	【 I III V 】
2 実施対象者	本校生徒 京都府立聾学校高等部生徒
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (保健体育科) ② 行事名 () ③ その他 (部活動 (陸上競技、ソフトボール部)) (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで取り組んできたスポーツを中心に、そのスポーツと関わったことで自分がどのように成長したのかをふり返し、今後スポーツとどのように関わっていくのか明確化させることで、豊かなスポーツライフを継続していくためのきっかけにする。 ・1年後に控えたオリンピック・パラリンピック東京大会への興味関心を深める。 ・障がいの有無にかかわらず、様々な人々とのスポーツ交流を通して他者を理解・尊重する資質や能力を身につけ、共生社会を実現する人材を育成する。
5 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・自分を振り返る「自分史」の作成とプレゼンテーション (10月中旬～1月/1月発表) ・オリンピック・パラリンピックについて 広報新聞製作とプレゼンテーション (12月～1月)



- 聴覚障害者との部活動交流(連携校：聾学校) (9月～11月)



6 主な成果

- これまで自分が取り組んできたスポーツの歴史や競技特性を知り、そのスポーツを通じて自分がどのように成長したのかを振り返り、今後、豊かなスポーツライフを継続するためのビジョンを形成する機会となった。また、学校教職員や先輩を前にして発表する機会を設け、表現能力の向上を図ることができた。
- オリパラの調べ学習は、本校スポーツ科学コースの生徒が班ごとにテーマを設定し、図書館やインターネットから検索し、独自のオリパラ新聞を作成した。オリパラの歴史やトップアスリートの成功体験や苦悩などを知ることで、自身のスポーツに活かそうという感想があった。また、校内に掲示し、より多くの生徒に見てもらうことで啓発・啓蒙する事ができた。
- 本校陸上競技部、ソフトボール部の生徒と聾学校の部活動交流は、聾学校の先生が事前指導に来て下さり、聴覚障害の方との関わり方や手話の指導を行っていただいた。実際に交流することで障害の有無にかかわらずスポーツを通じて互いに尊敬・尊重し合いながら交流会を実施した。新しいトレーニング器具（タニラダー）を用いて、本校生徒と聾学校の生徒がコミュニケーションを取れた。障害のある人とよりよい共生社会を実現させるために、何ができるかを気付くきっかけとなった。

<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 聾学校の先生から障害のある人との関わり方や手話などを生徒たちに直接伝えていただき、不安なく交流会を実施することができた。 • 本校で実施したオリパラ事業は、学校HPなどで紹介し、地域や家庭にも広報を行った。 • 多くの事業を実施することでオリパラを身近に感じることができた。
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 他校種との交流については、相手校とのスケジュールを調整しながら、無理なく継続していきたい。もう少し交流の機会や相手校を増やしていけると良いのではないかな。その他にも日常的に地域社会と結びつく活動を実施していきたい。 • 障がいのある人と安全にスポーツ交流するために、生徒も教員もより専門的な知識が必要であり、綿密な打ち合わせが必要である。 • 本事業を年度当初に日程調整や計画ができれば、さらに事業を充実させることができるのではないかな。 • 本校の事業は、対象生徒がスポーツ科学コースや一部の部活動生徒と限られており、オリンピック・パラリンピックを推進していくためには、全校生徒に浸透できるような事業を考える必要がある。対象生徒を広げていきたい。
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> • オリンピック・パラリンピックが身近に感じられるよう、事業内容を再考しながら、継続した事業を展開していきたい。